者異父兄弟ニ准じ可申哉、此段兼而心得罷在候度、奉伺候、以上、

弘化三年閏五月廿八日　　松平備中守家來　高室八左衞門

書面之通者、異父姉ニ而候、

庶兄妹

〔新撰字鏡親戚〕盱萬々妹也　庶兄萬々兄

〔倭訓栞中編阿〕あらめいろね　古事記に、庶兄を訓せり、

〔古事記中神武〕故天皇崩後、其庶兄當藝志美美命娶其嫡后伊須氣余理比賣之時、〇下略

〔古事記傳二十〕庶兄は字鏡に庶兄万々兄とあり、如此訓べし、上卷に、庶兄弟とあるを、たゞ阿爾於登杼母と訓たりき、彼は異母兄弟等を凡て云る、其を麻々某といふ稱を知ざれば、なり、又書紀綏靖卷に、庶兄をイロネ、用明卷に、庶弟をバラガラと訓るなどは皆當らず、又同書に、嫡母万々波々、盱万々妹などもあり、漢國にて、庶字は嫡に對へる稱にして、嫡妻の生る子を嫡子といひ、妾の生る子を庶子といふ、されば庶兄とは、嫡妻の生る弟の、妾の生る兄をいふ稱なり、此も其定まりの如く庶兄と書り、然れども皇國にては、嫡庶を論ず、凡て異母の兄弟を麻々兄麻々弟と云けむこと、彼字鏡に嫡をも庶をも万々とあるにても知るべく、又和名抄に繼父万々知々、繼母万々波々と見え、又古も今も、非所生子を麻々子と云、今言に非所生親子の間を麻々志伎中と云り、

〔古事記景行〕故大帶日子天皇娶此迦具漏比賣命、生子大江王、一柱　此王娶庶妹銀王、生子、大名方王、

〔古事記傳二十九〕庶妹は、麻々伊毛と訓べし、アラメイモと訓るは非也　字鏡に、盱万々妹也とあり、盱字は心得ず凡て庶をば麻々と訓べきこと、白檮原宮段に、庶兄とある下廿傳廿九葉のに云るが如し、庶字にはかかはらず、たゞ異母のよし、なり、

姉妹

〔令集解喪四十葬〕古記云、釋親云、女子先生爲姉、後生爲妹、案父之子身之姉妹也、俗云、阿禰於伊毛也、

〔松屋筆記八十七〕娣妹の字義

女子の長を姉といひ、次を娣といふ、男子の長を兄といひ、その次女を妹といふ、娣妹ともにイモウトとよめど、字はおなじからず、晉語一國語七卷七丁右に、獻公伐驪戎、克之、滅驪子、獲驪姬、以歸、立以爲夫人、生奚齊、其娣生卓子云々、注に、娣大計切、女子同生、謂後生爲娣、於男則言妹也云々と見えたる